

第2回ボランティア講座

認知症講座

守谷市社会福祉協議会 高野支部
高野地区地域福祉活動計画実行委員会

平成25年11月11日（日）午後1時半より、高野公民館集会室1にて第2回ボランティア講座が開催されました。今回は「認知症講座」という内容で30名の方が参加して下さいました。

第2回のテーマは「認知症」。現在、ご自身が介護者であったり、以前まで介護をしていた経験がある方から、全く実感がないという方、そして近い将来の為に、と参加して下さったり色々でした。

「認知症」は1回の講座で理解するのは、難しい内容ですし、認知症を起こす病気にも様々な疾患がありますので、今回は、現在、高野地区や守谷全体として、一般的にみかける状況を症例として5つ提示しそれぞれについて、グループワークをして頂くことにしました。5つの症例は次の通りです。

症例①お姑さんの介護をするお嫁さんのお話（初期の認知症～よくある症状～受診や相談について）

症例②認知症の母を介護しながら仕事をする独身の中年男性（男性の介護を考える、認知症の原因疾患）

症例③隣に一人暮らしの男性高齢者が住む家の住民（独居高齢者への地域の関わり、認知症の鑑別疾患）

症例④県外に父が一人暮らしをしている娘（独居高齢者への家族の関わり、地域との関わり）

症例⑤アルツハイマー認知症と診断を受けた40代男性（若年性認知症、高齢者の認知症との違い、現状）



それぞれの症例の立場に自分を置き換えて、詳しい認知症の知識がない状況で一般的な思いや良いと考える対応、必要と思われる対策等、沢山のご意見が出てきました。その後、各症例についてのグループ発表。

それに続いて担当講師（特別養護老人ホーム七福神スタッフ渡邊、デイホームひだまりスタッフ片桐、守谷市社協スタッフ高橋）からこの症例についての解説、認知症についての説明、情報提供などがありました。



「認知症」は医学的に未だ完治が困難な病気で、確実に増えている病気です。皆さんの身近な人にも起きるかもしれません。

そんな時、その人やその家族の気持ちを思いやりながら、暖かな気持ちで支えられる高野地区になるように、本日、修了者に手渡されたオレンジリング（認知症サポーターの印）を見ては思い出して

今後、地域で活躍して頂きたいと思います。認知症は日常生活上の困難さを伴います。同じ病気でもその人の年齢、性別、家庭環境、職業、色々な環境によって全く違う困り事が発生します。ですから、ひとつの病気としてではなく、その人の生活や人生全体を見守る事が大切です。是非、地域の皆さんの力を発揮して頂きたいと思います。ご苦労様でした。

*** 次回は「福祉マップ作り」を予定しています。**

現在皆さんのお住まいの地域では今何が必要とされているのでしょうか？福祉マップ作りを通して皆さんの地域の問題点や解決策が見えてくるかもしれません。現在、地域で実際活動されている方、町内会や班として自分達の地域を見直してみたいと思っている方々、是非ご参加下さい。

